

1. 建学の精神に基づき知識・技術・態度を身につけ優れた実践者としての判断力・応用力
問題解決力が行使できる人材を育成する。

- ・朝のHRや学校行事、学内演習、臨地実習、授業等あらゆる機会や場面を通し「建学の精神」を基盤とした教育に取り組んだ。学生一人ひとりの状況や到達度に応じた指導を行い、学科会等において情報共有を行い、細やかな指導ができた。
- ・毎朝の唱和をすることで、建学の精神を自ら念頭に置き指導ができた。
- ・問題が生じたときは、事実の確認、面談等を細かく行い、自分自身を振り返えさせる時間を設け、主体的に考えさせ自分の気持ちを表出させるように努力した。

2. 全学生の資格取得達成のため、授業評価を用いた授業改善、教材研究、研修に努める。

- ・研究授業・授業研究を実施し授業の改善、教員の質の向上を図ることができた。
- ・学外研修は、コロナ禍のため対面での研修会の機会が少なかったが、リモートの研修会に参加し担当分野の授業、実習での指導の充実を図ることができた。
- ・令和4年度のカリキュラム改正に向けての研修会等に参加できた。また、授業評価を行うことで授業の改善を図ることができた。

3. 全教職員が一丸となって教育相談を積極的に行い、学生一人ひとりの理解に努める。

- ・スクールカウンセラーの活用など、学生の抱えている問題について傾聴の姿勢で向き合うことに努めた。
- ・対人恐怖症の学生については保護者との連絡を密にし、共通理解し対応した。
- ・問題行動のある学生や悩みを抱えている学生へ担任をはじめ複数の教職員がかかわり、問題の解決や指導を行った。授業料に悩む学生は、事務が丁寧に相談に乗ったり、学校生活に悩みを抱えている学生へはカウンセラーが関わるなど多職種で連携することができた。

4. 教員自ら率先垂範し、地域ボランティア活動等への積極的な参加を通して地域に愛される学校づくりに努める。

- ・令和2年度は新型コロナの影響によりボランティアの依頼が2件でしたが、自主的な活動として地域の清掃を3回実施し延べ139名のボランティア参加がありました。
- ・小湊地域の方々との清掃活動を通じた交流ができ、感謝の言葉もいただきました。
- ・学校行事の小湊敬老感謝の集いや大島養護学校とのクリスマス交流会は対象者との触れ合いはできませんでしたが、メッセージカードや記念品のプレゼント、動画での交流などコロナ禍をふまえた工夫を行い実施できたことで地域との交流が図れたと思います。

5. 入学時からの進路啓発、進路面談を通して専門職に対する資格意識の高揚を図り、就職100%に努める。

- ・看護学科では、進路相談や就職試験の面接や出願時の指導を行い、個人面談を行い、就職率100%を達成することができました。
- ・国家試験対策については少人数制の学習サポートを行っており、成績下位の学生の指導強化を図った。
- ・こどもかいご福祉学科では、3年生はハローワークの職員に来ていただき、ジョブカードの作成やハローワークでの面談も実施した。就職率100%を達成し、全員が介護職、保育職に就職することができた。

6. 教育事務所、地元関係各機関との連携強化に努める。

- ・学園教育事務所からのアドバイスをいただき、春の特別企画（島外生体験入学）を行うなどうまく連携できた。
- ・奄美市成人式での学生実行委員の活躍が見られた。
- ・奄美市支援金を継続することができた。
- ・小湊町内会長との連携を密に行い、清掃活動や敬老のお祝い品配布など協力が得られた。
- ・各中学校を訪問し体験入学や職業理解などの交流をはかり学校を知る機会を作りたいと依頼した。

7. 全職員の協力による学生募集の推進

- ・体験入学をオンラインでも実施することができた。中学生も対象にした体験入学を3月に実施することができた。また、ガイダンスや出前講座に参加し学生募集に努めた。定員充足が出来ていないため、もっと工夫が必要である。
- ・少子化の影響や都会志向の若者の島外への流出を少しでも減らし本校の入学に繋げるための取り組みを再度見直す必要があり、入試形態を変更したことによって、結果につながったといえる。
- ・一丸となり、来年度の入学生を増加させる必要がある。